



第40号

(年4回発行)

編集発行

前学 院 大 学 会
報 委 員 会

印刷所
(有)小野印刷所

ノーベル賞と年齢

学長 吉岡 利忠

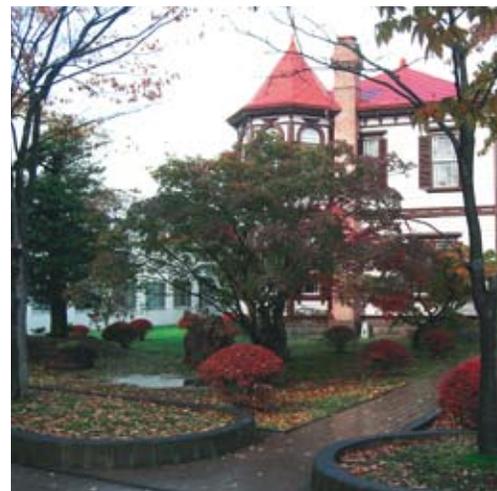


この原稿を書いているときに、2010年のノーベル化学賞の発表があった。スウェーデンの王立科学アカデミーは、北海道大学と米國パデュー大学の日本人二人と米國デラウェア大の三

人に授与すると発表した。三人の各大学におけるポジションは、名誉教授、特別教授で、日本では定年を迎え悠々自適の生活を送っているような年齢の方々である。昨今の日本内外を取り巻く情勢が厳しいなか、また、暗いニュースが続くなかであつて、久々に明るいニュース。受賞理由については少々難しいのでここでは述べる事ができないが、いずれも30数年の研究が対象になっている。30〜50歳代に昼

夜惜しまず精力的に研究した結果であろう。その背景には、すぐれた指導者がいて(多くの場合、ノーベル賞受賞者)、研究を継続できる環境、ある目標に向かう姿勢と継続していく研究態度、研究経費、多くの共同研究者の参画などさまざまな要因がある。米國は、ノーベル賞受賞者の数ではダントツであるが、諸外国から流出した研究者も少なくない。それにしても、京都大学の研究者がノーベル医学生理学賞を獲得できなかったことが惜しい気がする。

話しは少し横道にそれるが、弘前学院大学新入生のリトリートと主張した。発生の当初は士族だけの運動であつたが、やがて豪農や一般農民・都市民までも含む一大国民運動にまで発展し、明治十三年の国会開設請願運動では全国津々浦々から延べ約二十五万名が賛同し、国会の開設、地租軽減、条約改正、地方自治権の確立を要求して専制政府の打倒を叫び、粘り強い戦いを展開した。このように自由民権運動は、天賦人權思想を基礎にしてこのような要求をかかげ、形成途上の天皇絶対主義国家と真正面から対決した革命運動であつた。



一泊研修において、次のような話しをしている。ヒトのゼロ歳から生を全うする生涯の期間、あらゆるからだの臓器の機能がどのような経緯をとるのか3学部の新入生に話している。たとえば、ヒトが100歳まで生きるとしたら、25歳からスライナス3歳、すなわち22歳から28歳の期間はずっとも生理機能が活発であるということと、そのピークの期間から100歳までは徐々に機能が減退して行く。すなわち、ゼロ歳から25歳まではさまざまな機能が向上きで進み(成長期)、残りの75歳の間はゆっくりりと機能が減退して行く。そのスピードは、成長期に比べて6分の1だという。すなわち、ゆっくりゆっくりと衰

退していく。このような現象は、なにもヒトだけに限らず全ての動物・植物においても同様であり、たとえば、蚊が2日間(48時間)生きると思ったら、蚊が生まれてから12時間目付近がもっとも活発に動きまわっているころとなる。盛んに血も吸うし卵も産む。言いかえれば、ヒトの生涯のなかで成長・成熟期間がもっとも脳組織・脳細胞の働き(機能)がピークの時であり、その期間いくらかでも知識が入り技能も身につく。ちょうど、大学生時代はそのピークに向かう時であるから、懸命に勉強すること、からだを思いっきり動かす、どんなことにも挑戦しなさいと、リトリートの機会を使い新入生を激励している。その基盤さえできていけば、その延長線で高い評価を受ける研究や仕事ができることになるのです。

ところで、昨今、高齢者、超高齢者、高齢化社会、高齢社会などという言葉が氾濫し、それらに対するさまざま

な施策が国・地方行政、学術研究団体、マスコミなどを通して盛んに論じられている。研究の対象にもなっている。以前、ノーベル賞にノミネートされたある日本人高齢研究者が言った言葉を思い出す。「いまだき、高齢者を研究の対象とするのではなく、高齢者が研究できる環境を作るために国の予算を組め」と。年齢的には衰退の時期であつても、衰退のスピードが極めて緩いこと、さらに成長期に獲得した知識や技能がここで発揮されること、それが分かっているから、このような言葉が意味を持つ。そして、いつまでも研究活動が可能になってくる。

10月7日 記

本多庸一とキリスト教(14)

学校法人弘前学院
理事長 阿保 邦弘



自由民権運動

自由民権運動は、明治七年(一八七四)一月の民権議員設立建白書をきっかけに発生し、明治二十一年から二十二年の大同団結運動に至るわが国最初の近代民主主義革命運動である。こ

の運動は十数年に及ぶ運動であつただけで、運動の組織や要求も変わり、内容的に発展した。発生の当初は征韓論に敗れて下野した板垣退助・後藤象二郎・江藤新平・副島種臣の政府前参議らは、明治七年一月十二日愛国党を結成し民権議員設立建白書を政府につぎつけた。それは、明治政府を薩摩・長州藩閥出身者による有司(役人)専制政府であり、この政府が続けば国家はとうとう瓦解すると批判し、「君臣相愛しわが帝国を維持振起」するために民権議員を設立し納税者に参政権を与えよ

と主張した。発生の当初は士族だけの運動であつたが、やがて豪農や一般農民・都市民までも含む一大国民運動にまで発展し、明治十三年の国会開設請願運動では全国津々浦々から延べ約二十五万名が賛同し、国会の開設、地租軽減、条約改正、地方自治権の確立を要求して専制政府の打倒を叫び、粘り強い戦いを展開した。このように自由民権運動は、天賦人權思想を基礎にしてこのような要求をかかげ、形成途上の天皇絶対主義国家と真正面から対決した革命運動であつた。

これに対し、政府は各種の取締まりを強化し、もっぱら抑圧に狂奔したが、明治十四年北

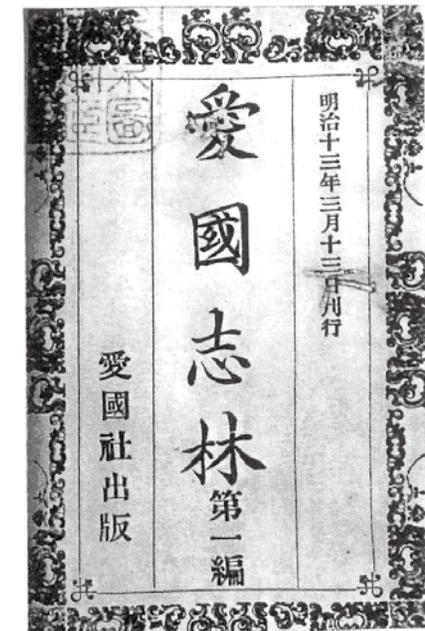
海道開拓使官物払下げ事件を機として、民権論が一段と盛り上がり、狼狽した政府首脳は急遽機先を制して、十年後の明治二十三年(一九一〇)に国会の開設を約束するにいたつた。国会開設期成同盟は直ちに板垣を総理とする自由党を結成し、大隈重信の立憲改進黨も明治十五年三月に発足した。しかし、政府の国会開設の意図は、当面する非難攻撃の矛先をかわし自由民権論を換骨奪胎して、帝國憲法による天皇制絶対主義への軌道に導くことであつた。政府は徹底的な言論弾圧を開始し、集会条例(十五年六月)、新聞紙条例(十六年四月)、出版条例(十六年六月)を相次いで制定する一

方、露骨な切崩しや買収工作に乗り出した。そしてこの専制政府の強硬策の前に自由党は明治十七年解党に追い込まれ、自由民権運動は空中分解するのである。

青森県の政治結社「共同会」
このように自由民権運動が全国的展開を見せていったとき、青森県においてこれを推進し、革新派の中心人物として自由民権国会開設運動を指導したのが本多庸一と菊池九郎であつた。明治十二年(一八七九)本多、菊池らを中心に東奥義塾関係者、弘前の有志を加えて「共同会」が結成された。これは、自由民権運動の政治結社であり、その設立の趣旨と思想は「共同会結

成宣言書」に見ることができ。それは、思想において、およそ当時の自由民権運動の主流をなしていた「立憲君主制の下における民権の伸張」というものであり、特徴的なのは東奥の後進性の打破があげられる。

明治十三年が明けると、全国の民権運動はいっせいに蜂起しはじめ、国会期成同盟の決議が行われるのであるが、青森県においては、この年一月ごろ本多と菊池が中心となり、国会開設の建白書を政府に提出する運動が開始された。まず檄



愛国社の機関誌。民権思想の普及と同志を結集する目的

お知らせ

- ◆クリスマス礼拝 12月9日(木) 16時より
- ◆クリスマス音楽の夕べ 12月9日(木) 18時30分より

場所：弘前学院大学 礼拝堂 入場無料

尚、音楽会については、本学までお問い合わせ下さい。マリンバと女性合唱(弘前ブルンネンコール)他を予定しています。

吉岡利忠学長、柳田邦男氏と対談



2010(平成22)年7月17日(土)、愛知県豊橋市の歴史建造物である豊橋市公会堂においてノンフィクション作家であり評論家の柳田邦男氏と学長との対談が催された。対談に先立って、柳田氏による基調講演「いのちを見る眼 人間を

見る眼、職業人と「2.5人稱の視点」があり、現在、日本体力医学会理事長である学長との対談は、「健康科学の進むべき道」と題して、約一時間にわたり500人程の参加者が聞き入った。このたびの講演会は、豊橋創造大学大学院健康科学研究科開設記念を祝して開催されたものであり、弘前学院大学客員教授である後藤勝正氏が研究科科長に就任した。柳田氏と学長とは長年の交流があり、2005(平成17)年10月1日の弘前学院創立120周年記念特別講演会の講師として、「いのちと響きあう言葉」と題した講演は記憶に新しい。

研究紹介⑪

育児と仕事

両立しやすい社会に向けて

社会福祉学部 助教 米山 珠里



私の研究テーマをキーワードとしてあげると「少子化」「ワーカライフバランス」「子育て支援」である。現在の日本は、少子化社

会と言われているが、合計特殊出生率の推移を見てみると一九五〇年には三六五であったのが、二〇〇九年は一三七を示しており、著しい減少傾向が読み取れる。少子化の要因としては、結婚観や価値観の多様化、女性の高学歴化による社会進出、子育てにかかる経済的・精神的・肉体的負担などがあげられ、社会・経済・個人的要因が複雑に絡み合った結果といえる。

必要がある。この、ギャップを埋めていくことが少子化対策に必要な鍵となってくると考える。その中でも、女性の仕事と育児の両立を保障していくことが大切だといえる。現在、約七割の女性が結婚や出産を機に退職している。女性が高学歴化して職業機会も増えているが、女性が働くことと結婚・子育てが両立しにくい社会であり、「就労と出産・子育ての二者択一構造」にあると言われている。出産も育児も職業も継続していくためには、仕事と生活の調和(ワーカライフバランス)に重点を置く必要がある。

財団法人大学基準協会

(JUA)による実地視察

自己点検・自己評価委員会 副委員長 八木橋鉄弘

去る十月十五日(金)、本大学において、大学基準協会の大学評価システムによる実地視察が行われました。これは学校教育法認証評価機関に必要な評価方法の一つとして定められているもので、大学の特色ある教育・研究、施設・設備等の状況を直接確認するとともに、評価結果の妥当性を確保するための情報、資料等を収集する目的で実施されるものです。当日の実地視察の内容は面談調査、学生のインタビュー、施設視察、授業参観でした。

基準協会側からは、主査、評価委員、事務局員の六名で、本大学からは理事長、学長、事務長、大学事務長の他自己点検・自己評価委員が出席しました。学生インタビューについては基準協会の方が学生から本音を聞きたいとの要望が強かった

ので、各学部、学年から1名ずつ代表者を選び十六名三班体制で望みました。出席する学生には説明会を持ち各自それぞれの立場から自由に意見を述べるようお願いしました。実際、いまではFD等により授業改善に向けての取り組みが始まっており、講演会、授業評価アンケート、出版を通じた活発な研修が進められています。大学基準協会による大学評価

談話室

時の流れ

文学部教授 丸山 正道



歌ありてうた仲間ありわれらしく 生きしを思ふよはひ九十

(窪田章一郎) (まひる野)二〇二、四月号、一五頁

私が窪田章一郎先生主宰の「まひる野」に入会したのは、平成三年五月のことでした。私が弘前の地に職を得たのが、昭和五十六年四月のことですので、平成三年は、それから十年後のことになりました。入会して間もなく、窪田先生が東北地方を旅され、その折、弘前にも立ち寄られました。その折、窪田先生は、自ら我々歌友を案内されて、弘前の護国寺境内に行かれました。そこには、宇津野研氏の歌碑があります。

行く道の空にさくらのちりみたれ 覚めて見る夢の如きひとよき (宇津野研) が、その歌です。その歌を先生は、朗々と声高らかに詠われ、更に次のようなことを話されました。私(窪田章一郎先生)が少年時代、学校から帰って来ると、自分の家の前にハイクラな自動車が置かれていました。それは、宇津野研先生の車でした。家の内では、父親(有名な窪田空穂先生のこと)と和歌に関して話されていました。

2010(平成22)年度 一年生(新入生)のための『ヒロガク教養講話』

(木曜日11時15分~ 45~50分間) (414号 大講義室)

開講日	担当者	タイトル
1 5月 6	学長	吉岡 利忠 宇宙とからだ
2 5月 13	文学部長	畠山 篤 万葉の紫の発想 一恋衣の系譜一
3 5月 20	弘前大学 名誉教授	品川 信良 若い方々に私が望んでいること
4 5月 27	看護学部 教授	榎引美代子 ヒロガク学びの始まり
5 6月 3	英語・英米文学科長	佐藤 和博 "Take Me Out to the Ball Game" 一野球とアメリカ文化一
6 6月 10	社会福祉学部 教授	大野 拓哉 屁理屈のすすめ
7 6月 17	東和電機工業株式会社 代表取締役社長	榎 美樹 青森アラカト
8 7月 1	弘前コーヒースクール 主宰	成田 尊蔵 弘前は珈琲の街です
9 7月 8	ブナコ漆器製造株式会社 代表取締役社長	倉田 昌直 「バクの銅い主めざして！」~夢を持つ、夢をかなえる~
10 7月 15	弘南バス株式会社 代表取締役社長	山口 健六 自分は自分でしかありえない 一いま、を生きる一
11 10月 22	社会福祉学部 教授 (地域総合文化研究所長)	笹森 建英 死者を呼び出し語るイタコ
12 7月 7	看護学部長 前(元)慶応義塾高等学校教諭	木村 紀美・高橋 誠 いのちの重さ
13 7月 14	日本語・日本文学科長	井上 諭一 クールジャパン 一日本のマンガと小説一
14 7月 21	弘前学院大学 客員教授	永野 孝和 Something Great
15 7月 28	看護学部長	神部 博 医療・看護に必要な人間性

と仕事との両立を決心した動機としては、働きやすい職場環境があったからと答えている。仕事と家庭のバランスに配慮した柔軟な働き方ができる職場環境の整備が必要といえるだろう。出生率低下の問題を改善させていった諸外国の例を見ても、労働環境を整えながら、子育て支援政策などを充実させている。日本においても仕事と家庭の両立支援が行えるよう、今後もこの研究を続けていきたい。

両親学級の開催

看護学部において、予てより構想を練っていた「両親学級」の開催が始まりました。今年度は三回の開催予定で、第一回は七月二十四日(土)、第二回が九月二十五日(土)の開催でした。第三回の開催は十一月二十七日(土)の予定です。いずれも十二時三十分～十五時の時間帯に、看護学部母子看護実習室にて開催しています。「新しい家族を迎えるための準備」というテーマのもと、妊婦とそのパートナー・家族を対象としています。

両親学級の企画運営は、母性看護学分野の教授、講師の二名で行っており、参加は原則予約制とし、一回の予約人数は五組でスタートしました。弘前市内の産科クリニックのご協力を得て、妊婦健診を受けている方々に両親学級開催のお知らせをしていただいております。内容は、パートナーの妊婦疑似体験、分娩の経過について、お産の過ごし方と痛みの和らげ方、育児体験、個別相談で構成され、妊婦およびパートナーや家族が参加する参加型両親学級です。

産ませてもらった分にはなく、自ら産む分、また、新しい家族を迎えるにあたってパートナー・家族も妊娠・出産・育児への協力と喜びを共有できることを目指しています。工藤優子講師が主

七月二十四日(土)に父母と教職員の会の事業の一環として講演会が本学礼拝堂において開催されました。講師には元県教育次長・県スポーツ振興局長・弘前実業高等学校校長を歴任された武田登氏をお招きして、「雑感―相撲を通じて―」というテーマで約三十名の出席者を前に相撲を通しての経験談や人生哲学など種々お話をいただきました。

ところで武田氏は、中学、高校、大学および教員になってからも相撲道に精進されかつ選手として素晴らしい活躍をされました。また教員時代は十七年間の長期にわたって、弘前実業

高等学校相撲部の監督として選手への指導に当たられたのですが、監督就任三年目で県大会優勝、六年目でインターハイ優勝という素晴らしい業績を打ち立てられております。講演の中で武田氏は、「自分と相撲との出会いは、中学校に入学して間もない遠足の時、相撲部の顧問の先生と相撲をとったことがきっかけである。その顧問の先生との出会いが、そののちの自分の人生において相撲と自分と結びつけるものとなった。相撲部の顧問となつたときは、指導者として三年目で県内優勝、六年目で全国大会優勝という目標を掲げ、その目

標を達成するべく、日々の練習に選手を厳しく鍛えた。おかげで目標を達成することができ、目標を設定することの大切さを自ら実感することができた。目標に向かって、自分自身が努力でき、努力次第では結果を変えることもできるといふことが確信できた。」と述べられました。

最後に、「人から受けた恩は石に刻んでも忘れるな」「人に与えた情は水に流して忘れろ」という武田氏自らの座右の銘を

話され、相撲人生を通じて、人とのつながり・人の輪を大切にし、そして人に感謝する気持ちを決して忘れてはいけないと熱く語られました。(文責 父母と教職員の会 事務局)

父母と教職員の会

講演「雑感―相撲を通じて―」 武田登氏

地域総合文化研究所だより

所長 笹森 建英



地域研究所では、九月十九日に弘前市の学習センターで、「津軽三味線国際シンポジウム」を津軽三味線のグループとの共催で行った。一五〇余名の参加者があり、活発な討議が行われ、地域に対する貢献を果たすことができた。島山篤文学部長が、開会の挨拶で研究所のこれまでの活動を紹介し、シンポジウムの意義について

パネラーとしては、著名な研究者ジェラルド・グロウマー氏、弘前大学教授のジェームス・ウェスターホーベン氏、民謡の権威者松本宏泰氏、行政からの代表として小山伸吉氏が参加し、極めて有意義な発言をされた。

年々、コンクールに外国からの演奏家が多く参加するようになってきている。これからも増えていくことであろう。しかし、それだけが国際化ではないので、外国人による博士論文や修士論文の検討、海外への演奏旅行、海

外での教授などの必要性が指摘され、未来への展望が検討された。十代のアメリカ少女三名が模範演奏したり、カリフォルニアで教室を開いているアメリカ人の演奏もあった。

ステージの横には、弘前学院大学からの大きな花が飾られ、華やかな雰囲気を出していた。弘前市の広報、東奥日報、陸奥新報に大きな紙面で報道され、研究所の名を広く知らしめることができた。このシンポジウムの内容は、『地域学』に掲載予定で文の検討、海外への演奏旅行、海

平成二十二年 度

九月期学位記授与式挙 行

平成二十二年九月期の学位記授与式が去る九月三十日(木)午後三時三十分より本学礼拝堂において挙行されました。今年



第3回 ヒロガク福祉創造フォーラム

愛 地域へーソーシャルワーカーと「コミュニケーション」

実行委員長 社会福祉学部2年 佐藤 知美

- ▽目的 「ソーシャルワーカーとコミュニケーション」愛地域へーをテーマにフォーラムを開催します。現在、福祉が抱える課題を適切にとらえ、地域社会の福祉向上の担い手として、どのようなソーシャルワーカーが求められるのかについて考えます。
- ▽とき 11月7日(日) 午前9時半～午後4時(予定)
- ▽ところ 弘前学院大学(稔町13-1)
- ▽内容 ①基調講演「ソーシャルワーカーの考えるコミュニケーション」
- ▽参加料 無料
- ▽その他 手話通訳有
- ▽問合せ先 弘前学院大学社会福祉教育研究所(玉井) (TEL.34・5311) mail kenkyunusyoo@hirogaaku-uac.jp)

式終了後には、卒業生に花束が贈呈され、出席者全員で卒業生の新たな旅立ちをお祝いしました。

看護総合臨床実習

地域での健康教育の体験

看護学部四年 鎌田 由麻・鳥谷部 舞・山本 研太郎

私たちは、看護総合臨床実習で地域看護学領域の実習を行いました。担当する稔町地区を3か月程前から調査し、地区や対象者の生活について理解を深めました。また、協働的な健康教育を実施するため町会長様からお話を伺い、インフルエンザの流行時、学校などと異なり地区会館や地域では十分な対策がとれなかったこと、高齢者の方にはそれぞれ感染予防の習慣があることが分かりました。そこで高齢者の感染予防の一貫と



びチラシの作成・実施方法などを検討しました。



実際の健康教育では、より正しい方法を理解していただけるよう、教材や説明方法に配慮しました。視覚的に訴えるため、先生方の協力を得て細菌培養を実施し、手や身近なものにどのくらい細菌が付着しているのかを提示しました。手洗いが不十分になりやすい部分や、正しい手順を示したポスターを作成し、手元に残せるようパンフレットも配布しました。さらに、グリッター・バッグという機械を使い手洗い後の洗い残しを参加者一人ひとりに確認してもらったところ、「もつと丁寧に洗おう」「手首ってあんまり気にしてなかったけど」との声が聞かれ、知識や関心を持ってもらえたことが確認できて嬉しかったです。また、自分の感染予防のためだけでなく「家族の健康を守るために気を付けなくては」といった言葉から、家族の感染予防について関心を持てるようになった。

がんばっている在学生

私たちは毎週水曜日の3時から、土手町にあるルネサスベニニュー2階楽市楽座内のつがるすこやかネットでボランティア活動をしています。

今は目の見えない方向けの「触る絵本」として、布や綿を使って赤ずきんちゃんの絵本を作っています。赤ずきんちゃんのストーリーを絵本用に短くし、図案を考え、下書きしてから布等を貼り付けていきます。更にストーリーを点字になおす作業もあるので、

社会福祉学部一年 西田 主織

とても時間のかかる仕事です。また、点字で温かみのある津軽塗りの歌詞カードを作りたいという依頼を受け、美空ひばりの「川のながれのように」を点字になおす作業もしています。点字経験者が1人しかいないので、どちらかほぼ手探り状態です。5人という少ないメンバーでそれぞれの特技を活かし、作業分担をしながら、完成をめざし頑張っています。これからは保護者の方が買い物

人ひとりに確認してもらったところ、「もつと丁寧に洗おう」「手首ってあんまり気にしてなかったけど」との声が聞かれ、知識や関心を持ってもらえたことが確認できて嬉しかったです。また、自分の感染予防のためだけでなく「家族の健康を守るために気を付けなくては」といった言葉から、家族の感染予防について関心を持てるようになった。

留学体験記

文学部 英語・英米文学科三年 白鳥 優希

今年の夏は、私の中で一生忘れられないであろうものになりました。楽しかったとか勉強になったとかではなく、いろんな意味で普通でなかった、というのが正直な感想です。出発前に思い描いていたものと大分違ったものになりましたが、今となってはそれもいい思い出です。

私はアメリカに着いて早々、喉の調子をこじらせた。その上熱まで出してしまいました。最初は空気が違うせいだと思っていたのですが日に日に悪化し、声が出なくなりながら何の為にやるべきか悩んでいました。

をしながら何の為にやるべきか悩んでいました。今聞かせたいと考えています。作業途中の作品は私たちがいる福祉に関するパンフレットも沢山あるので、是非、足を運んでみて下さい。



う働きかけができたと感じました。今回の実習では、3年次に実施した地域看護学実習に比べ、自らが主体的に対象者の視点で内容を考え、方法を工夫して健康教育が実施できました。改善点としてこのような取り組みに参加しない方々もいることが分かったので、参加を促す方法や呼びかけの工夫など今後も考えていきたいと思いました。



いよいよ私の不安は最高潮。挨拶もやっとな英語力の私ができるわけがないのに、どうするんだらうと一人動揺している。ドクターが私に「どんな症状なのか話して」と言いました。言われるがままに耳にあてると女の人が日本語で話しかけてきました。ある程度私が話すとドクターに「ドクターに説明するとドクターが話し、私にかわってドクターに聞かれた事に答える」とまたドクターにかわるという自分でも奇妙な光景が繰り返されました。

卒業生からのメッセージ

文学部 英語・英米文学科 二〇一〇年三月卒業 馬場 豊樹

今、自分のできることは何か。大学を卒業して早くも約半年が過ぎました。大学で出会った同僚たちも弘前学院大の鑑として社会で活躍されていることと思います。

私は現在、県立弘前実業高等学校で講師として働いています。大学では、英語・英米文学科に所属し、日本とアメリカの異文化理解のゼミを専攻し、将来の夢である教師になるために、教職課程を履修しながら、教員採用試験の対策をしていました。特に、4年生になってからは、卒業論文と教員採用試験の勉強を両立させることがとても大変でした。先生方から「時間は自分から作るものである」と指導されてから、自分のやりた

くなるころにやっとな喉の痛みが引き、その頃にはもう最後の数日間という具合でした。旅先で病院に行くことになるなんて、しかも海外で、もともと自分の英語力は高くないことは自覚していましたが、この研修を通して改めて思い知らされ、自分の言いたい事くらいは言えるようにもつと勉強しなければなあ、と思いました。

東日本大会に向けて

社会福祉学部三年 主将 工藤 安郁

私達野球部はこの度10月9日から11日まで行われた東日本大学軟式野球選手権大会奥羽地区予選で準優勝をし、千葉県で行われます東日本大学軟式野球選手権大会に奥羽地区代表で出場することとなりました。

正直なところ、弘前学院大学の野球部といってもピンとこられる方は少ないと思います。私達は奥羽地区の軟式野球連盟に加盟をし、野球部として週に2回練習を行っています。自分たちのグラウンドを持っていませんので、主に河川敷のグラウンドを使用し練習をしています。部員は社会福祉学部、文学部、看護学部の15人にマネージャーが9人の合わせて24名で活動しています。選手の中には野球経験者から大学に入って本格的にやり始めた人まで様々ありますが、皆野球が好きで毎週楽しく練習を行っています。

今年に新たに新入部員が4名入り、それがチームの底上げに繋がりました。春に行われたリーグ戦では1勝2敗と負け越し、奥羽地区予選でのシード権を得ることができず悔しい結果になりました。このことから秋の大会への思いがより一層強くなり、それからは自分たちのプレーを見つめなおし基本から丁寧に練習していくことを心掛けました。また高校の軟式野球部や社会人野球の方たちと試合を行ったり、弘前モータースクー

ルさんで主催するモーターカップに出場したりと大会まで試合を失うことのないよう努めました。その甲斐あってか、大会1回戦八

少ないことは自覚していましたが、この研修を通して改めて思い知らされ、自分の言いたい事くらいは言えるようにもつと勉強しなければなあ、と思いました。



最後に東日本大会に行くにあたって支援して下さった大学の先生方、関係者の皆さまに深く感謝と御礼を申し上げます。